

### 「視野を広く！」 先入観からの開放を



とある雑誌を読んでいたら、次のような話に出会いました。近頃、自分の中にある先入観に危うさを感じていた私…。参考になれば…。

ある大学生が友達と帰宅途中、エンストして立ち往生していた車に出会いました。生憎の雨の中、「僕達が押すので、スピードが出たら、クラッチ放して下さい（ミッション車の話）」と伝え、ありったけの力で車を押ししました。「ブオーン」エンジン音が響き、「よかったあ」と思った瞬間、一言のお礼も言わずその車は立ち去って行きました。大学生は、仕事から帰ってきたお父さんに「雨に濡れてまで押してやったのに…」と今日の出来事を息せき切って話しました。

それを聞いたお父さんは、大学生の息子にこう諭したのだそうです。「それはいいことをしてくれた。お父さんがその運転手の方に代わってお礼を言うよ、ありがとう。お前はやっぱり父ちゃんの子だ。その人もきっとお礼を言いたかったに違いない。でも、またエンストして迷惑をかけるかもと思って、やむを得ず走って行ったんだと思うよ」と。

「この親にして、この子あり！」

「何て人だ、信じられない！」と子供に同調し悪口を言うのは安易で簡単なことだったでしょう。でも違った！何と懐の深いお父さんなのでしょう。想像力と寛容な心を鍵に、親が子に人としての生き方を示す。①想像力の豊かさや、②人を信じる力、そして、③相手を許す寛容な心など、現代の日本人が無くしかけている心の有り様に気づかされた衝撃的な話でした。私もこんな親になりたい！心からそう思った夏の夜でした。



ところで子供達は、家で学校の話をするのも多くあることでしょうね。その話題には、良いこともあればそうでないことも…。それが良い話だったら大いに喜びを分かち合い

逆であったら、話を良く聞き、共感し言葉をかけてやっていただければ…。ただ、そんな時こそ、先ほどの話を頭の片隅におくような心の余裕が大切かと。なぜなら、子どもは自らを守ろうと、都合の良いところだけを伝えることも多々あるからです（大人もそうですが）。そう、防衛本能が働くのです。子どもの頃は、それが顕著であること、それを承知の上で、大人が冷静に対処する必要があるということです。大人が想像力と寛容さを持ち、過去に引きずられることなく、公平公正に対処する賢明さをもたねば、子供は真っ直ぐ伸びる芽を失うのではという危惧さえ感じます。その意味でも、学校と家庭のパートナーシップを今後も一層奨励していきたいと思います。行き着くところは共に、「より良い子育て」ですからね(\*o^\*)。

### 熱中症ボード登場



梅雨明け間近となり、熱中症の心配が増えています。学校には、生活向上を目指した各種委員会がありますが、この写真は、その一つ、保健委員会が作成してくれた、熱中症予防のための

基準表です。このボードを見ながら子供達は、状況を確認、昼休みの過ごし方など考えていくわけです。これからの時代、熱中症をはじめ、健康を守るために様々なことに対処する能力も付けていく必要があるなあ…とボードを眺めながら思った次第です。

### ホッと一息

季節の移り変わりは、学校生活にも潤いを与えてくれます。その代表が、1年生が育てる朝顔。

子供達は、毎朝、朝顔に水をかけながら、自分の心にも優しさの水を与えているのでしょうか。鏡に映すように！



「朝顔に 釣瓶とられて もらひ水」

